

大学生の学生相談ニーズの順序構造分析

○大野 順¹・いとうたけひこ²・井上孝代³
(¹杜の郷・²和光大学・³明治学院大学)

目的

近年、社会の変化に伴い、大学生の抱える問題の多様さや複雑化が指摘されている(鶴田,1998など)。それに伴い、大学教育の中での学生相談機能の重要性が指摘されている。

学生相談への援助要請モデルとして、高野・宇留田(2002)があるが、ここでは、専門家に相談するか、それとも非専門家に相談するかという点において、その順序性については言及されていない。したがって、本研究では学生相談で扱う相談内容の各項目について、友人への相談と家族への相談と学生相談室の3つの相談相手の間に相談しやすさの順序性があるかどうか、順序構造分析を使って検討した。

方法

大学生168名(男性101名、女性63名、不明4名、平均年齢20.33歳($SD = 1.78$))を対象に、質問紙調査を実施した。調査時期は、2009年7月であり、都内私立大学生に対して、調査を行った。質問紙の構成は、①デモグラフィック変数、②学生相談ニーズ尺度(平井,2001)、③学生相談の利用経験、④自由記述であった。

結果と考察

友人、家族、学生相談に対する援助ニーズについて、悩みによって、選択されるサポート源の順序や、サポート源同士の構造について明らかにするためにニーズ尺度 35 項目について順序構造分析(戸田・酒井・やまだ,2009)を行った。順序構造分析とは、複数の事象間に見られる順序性を明らかにしたい場合に用いられる分析の一つである。この分析は、仮説探索的に様々な順序構造を構成し、比較検討することができるため、本研究で、順序構造分析を行うことにして、 t 検定と相関係数を用いた方法を採用した。操作的な定義として、 t 検定が有意確率5%以下($t > 4.30$)でかつ相関係数が0.4以上のペアを順序性が有るとみなした。

学生相談に焦点を当てて、家族・友人という他のサポート源との関係から相談内容の項目の順次性を調べた結果、①学生相談が友人よりニーズが高い学生相談優位型(Fig. 1)、②家族・友人と順次性の無い学生相談低位独立型(Fig. 2)、③まず友人に相談するという友人順次型(Fig. 3)、④まず家族に相談するという家族順次型(Fig. 4)の4類型に分類された。図の楕円形で示されたものが援助者であり、位置の高さがニーズ得点の高さを表し、パイプ線は t 検定と相関係数により順序性があつたと判断されたことを表す。

学生相談優位型は、「奨学金について情報がほしい」、「成績や単位について不安がある」、「よりよい勉強の方法を知りたい」といった項目が分類された。

したがって、これらの悩みについては、他のサポート源を介さないで、直接持ち込まれる可能性が他の悩み比べて大きいことが予想される。学生相談ではこのような内容を前面に出したアピールが有効であると考えられる。

学生相談低位独立型は、「さみしさや孤独感を感じる」、「自分に自信がなく劣等感を感じる」、「悲しい出来事や泣きたい出来事があった」といった項目が分類された。このタイプは、他のサポート源から独立しているため、独自の相談相手として發揮できる項目領域ではないかと思われる諸項目である。直接的な働きかけによって、来談に結びつくケースもあるのではないかと考える。これらの悩みに対しては、一般の学生を広く対象にした心理教育的なアプローチが有効ではないかと考える。

友人順次型には、「夢や理想と、現実とのギャップに悩んでいる」、「人生の目標を見つけたい」といった項目が分類された。学生相談においては、直接的にカウンセラーが相談に乗るといよりも、ピアカウンセリングやセルフヘルプグループのような活動を支援していくことが有効ではないかと考える。

家族順次型には、「専攻分野を決める(転部、編入含む)」、「経済的な問題で悩んでいる」といった項目が分類された。これらの悩みは友人や学生相談に悩みを相談するというよりもむしろ、家族と話し合っただ直接的な解決を図ることが多いと考えられる。家族に対して手段的サポート(福岡・橋本,1997)を求めていることが示されている。

本研究の相談項目に表現されたような悩みの種類によって、相談しやすい相手が違うという対応関係を4つの類型によって整理することが出来た。学生相談の役割としては、特にガイダンスの役割が重要であることに留意しながら、大学というコミュニティにおいて入手可能なリソースを活用するマクロ・カウンセリング的アプローチ(井上,2006)の重要性が示唆された。

文献

平井元.(2001). 大学生の悩みの構造と、相談相手、学生相談への援助ニーズに関する研究-早稲田大学学生を対象としたニーズ調査の結果より-. 早稲田大学大学院教育研究科紀要別冊, 9(1), 21-31.

戸田有一・酒井恵子・やまだようこ.(2009). 心理学研究における順序構造分析の提案と課題 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 303.

井上孝代(編)(2006). コミュニティ支援のカウンセリング: マクロ・カウンセリング実践シリーズ3 川島書店

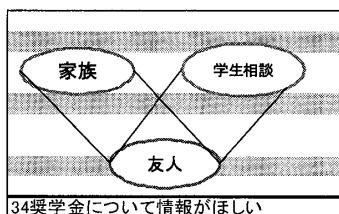


Fig.1 学生相談優位型

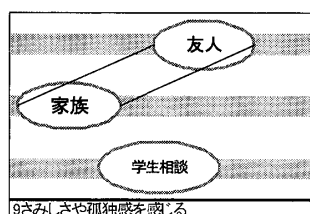


Fig.2. 学生相談低位独立型

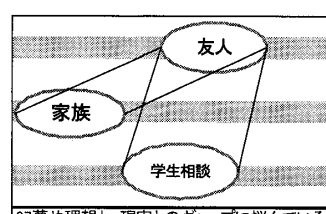


Fig.3. 友人順次型

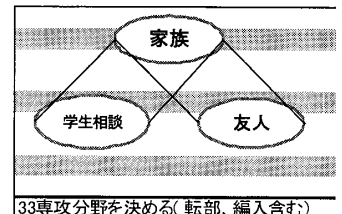


Fig.4. 家族順次型